

オウム病を知る－鳥と安心して暮らすために－

What is 'Psittacosis'? – Worry-free Living with Companion Birds -

岐阜大学 応用生物科学部 教授・福士 秀人
Hideto FUKUSHI, DVM, PhD, Professor,
Faculty of Applied Biological Sciences, Gifu University



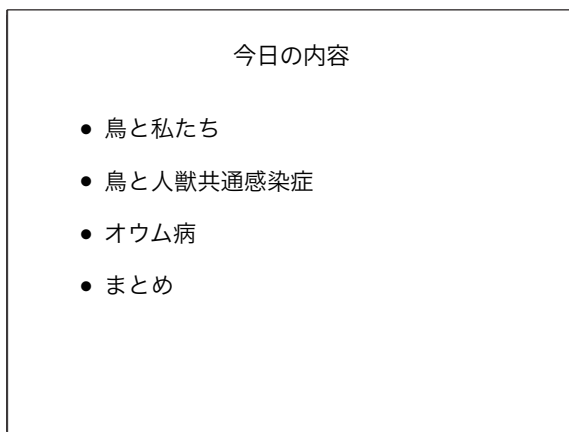
○福士先生

岐阜大学の福士です。

ここまでは、哺乳類でしたけども、私のお話はオウム病ということで、鳥のお話になります。



【スライド 1】



【スライド 2】

先ほど動物を飼うということがありましたけども、犬は、恐らく1万数千年、猫も1万2,000年ぐらいの歴史があると思います、人と暮らすようになってから。鳥はどのくらいかというのはわかっていないようです。後でもお話ししますが、オウム・インコ類というと、動物園で、ひとりでぽつんと、とまり木にとまっていたり、数羽で飼われていると思いますが、実際には、群れで暮らしています。

実際に、オウムたちは非常に頭がよくて、おしゃべりで、非常に精神的にも活発なので、集団で仲よく暮ら



【スライド 3】



【スライド 4】

しているわけですね。そういった鳥たちを、ある意味拉致して、一羽ずつ飼うというのが、実際に、この鳥たちにとってどういうことかというのは、本当はわかっていたideきたいと思います。そうなったときに、鳥たちにとって一番大事な人たちは飼い主なんですね。飼い主との交流によって自分の精神的な安定性を求めていますので、鳥を飼う方については、やはり死ぬまできちんと責任を持って飼っていただきたいと思います。そのためには鳥の健康を維持することが非常に重要であって、鳥の中でどんな病気があるかというのを理解することが大切だということで、お話しさせていただきます。【スライド 1-2】

最初に、オウム病だけが鳥から来る人獣共通感染症

ではありませんので、1枚ですけども、鳥と人獣共通感染症ということでお話しさせていただきます。その後、きょうの主なタイトルでありますオウム病について、現状ですとか、簡単な治療法も含めて紹介して、まとめていきたいと思います。【スライド3】

最初に、鳥と私たちということです。ここは国際学会ということですけども、日本では、平安、鎌倉、室町という時代がありました。平安というと今、平清盛のドラマをやっております、あの中でも犬が出てきたり猫が出てきたりしますけども、その当時どうだったかといいますと、多分、そのころは、鳥については鳴き声の美しさを愛でていたようです。「ほととぎす鳴きつる方を眺むれば ただ有明の月ぞ残れる」というのが歌集に残っているわけですね。ですので、日本人というのは、鳥と古くからかかわってきたというのが和歌を見てもわかると思います。

そのほか、メジロですとか、江戸時代になりますと、毛色の鮮やかさですとか、手乗りにして楽しんでいたということがあるかと思えます。ブンチョウのたぐいもたくさん出てきます。

明治・大正になりますと、外国からいろんな鳥が入ってきますので、おしゃべりや歌声を聞くようになって、オウムですとか、オカメインコなどのような鳥が出てきます。それから、小桜インコですね。アフリカン・グレイなどもあります。

明治ですと、夏目漱石の小説にも出てきますね。ブンチョウというのがたしか出てきて、ブンチョウ飼いたいんだけど、どうすればいいかというので、なかなか弟子が鳥かごを買ってこないとか、いろいろぶつぶつ言うのが随筆に書いてあると思えますけども。昔は、こういったフィンチ類というんですか、ブンチョウが多かったと思うんですが、このごろは、やはりオウム・インコ類が多いようです。【スライド4】

最初はセキセイインコぐらい買います。セキセイインコも非常にかわいいんですけども、体のこともあって、ちょっと幼いんですね。もうちょっといろいろつき合いができるということで、オカメインコを飼うようです。オカメインコも十数年生きますし、いろいろ話をしてくれるんですけども、それでもだんだん物足りなくなって、大型のオウム・インコ類に行くようです。【スライド4】

鳥の販売数については、環境省が出しているデータしか持ってないんですけども、国内生産が大体8万4,500羽、それから輸入が11万5,000羽ですので、トータルで19万9,000羽。大体20万羽ぐらいですね。



【スライド5】

思えば、私の小学校のころは、近くに小鳥屋さんがありましたし、私の父親も小学校の教員でしたけども、学校でジュウシマツを飼っていました。カナリヤもいました。ただ、歌を歌わないカナリヤの歌を歌っても、多分、今の子どもたち、全然わからないと思うんですけども、鳥は大分様相が変わっています。

このように羽数は減っているようですが、ただ、1羽当たりの販売価格は非常に高いものが多くなっているようです。【スライド5】

- 鳥と私たち
- 鳥と人獣共通感染症
- オウム病
- まとめ

【スライド6】

鳥類が伝播に関与する人獣共通感染症

- オウム病
- ウエストナイル熱
- 鳥インフルエンザ
- 結核、サルモネラ症など

【スライド7】

鳥と人獣共通感染症ということですが、鳥類が伝播に関する人獣共通感染症は、きょうお話しするオウム

病、それから、これは野鳥になりますけども、ウエストナイル熱、非常に有名になりました。それから、あと欠かせないのが鳥インフルエンザですね。やはり鳥インフルエンザに関する関心は非常に高く、去年も、ある中学校の先生から突然電話がかかってきました。何かといいますと、美術の時間にチャボのスケッチをするんですけども、このチャボが鳥インフルエンザを持っていないという証明をしてくれと言われました。それで抗体検査とふん便のPCRをやって、陰性ですということでお返ししました。多分、子供たちはチャボを一生懸命、絵にかいたと思います。そういった事例もあります。【スライド7】

オウムインコ類に関するズーノーシス				
疾病	病原体	伝播様式	トリの症状	ヒトの症状
サルモネラ症	<i>Salmonella</i>	通常は経口時として他の経路	不顕性（見掛け上健康）から急性の全身感染	多様、しばしば胃腸症状時として発熱
オウム病	<i>Chlamydia psittaci</i>	通常は吸入時として他の経路	不顕性から急性全身感染	不顕性から重篤な呼吸器疾患に至ることもある。
エルシニア症	<i>Yersinia pseudotuberculosis</i> <i>Y. enterocolitica</i>	通常経口	不顕性から急性	消化器症状
結核	<i>Mycobacterium spp.</i>	通常経口時として他の経路	局所から全身	局所から呼吸器や消化器系
外部寄生虫侵襲	接触	不顕性、掻痒および貧血	掻痒と皮膚病変	掻痒と皮膚病変

【スライド8】

ただ、こういったウイルス性のものや、それ以外に結核やサルモネラも実際にはあるわけなんです。それをちょっと表にまとめてみますと、例えば、先ほど言いましたサルモネラ症、これは爬虫類等が多いかとは思いますが、実際には、鳥でもサルモネラによる病気はあります。これもふん便に出ますので、問題になるわけです。

それから、オウム病ですね。これは、後で詳しくお話します。

これまでも話してもらいましたが、こういった動物由来感染症の場合に、多くの場合、動物の側は症状が余りなくて、人に来たときに大きな問題になるものが多いと思います。

先ほど出ましたけども、鳥の結核もあります。人のマイコバクテリウム・ツベルクローシスや非定型性結核菌もありますので、注意が必要かと思えます。

それから、あと、外部寄生虫のたぐいもたくさんありますので、接触等については問題が出てまいります。

それから、ここでは示してないんですけども、感染症ではなくて鳥アレルギーというものもあります。犬や猫の毛のアレルギーを持っている人もいます。鳥の場合も、鳥の毛ですとか、ふけに対するアレルギー

を持つ場合もありますので、そういった場合には、急性のアナフィラキシーを起こすと生死にかかわりますので、そういった注意してくださいというお話もしています。【スライド8】

- 鳥と私たち
- 鳥と人獣共通感染症
- オウム病
- まとめ

【スライド9】



【スライド10】

それでは、こういった中で、オウム病ということについて少しお話をしようと思います。オウム病というのは、実は、非常に古い病気です。19世紀の末には、既にスイスの内科医がオウム病と思われる病気を記載しています。その後、20世紀の初頭にヨーロッパでの大流行が報告されてます。オーストラリアから非常にきれいなオウム・インコ類がヨーロッパに輸出されて、それを飼うのが流行したようなんです。いつの時代もトレンドというのがあるんですけども。その課程でたくさんの方がオウム病に感染し、それを契機として研究が一気に進んでまいりました。

日本では、海外事例として、1930年か40年ぐらいに船乗りの方が外国で買ったインコ類から感染した例があると聞いてますけども、国内例では、1957年に初発例が見つかっています。

下の絵にも描きましたが、オウム病は鳥が排せつしたクラミジアという微生物によって起こる感染症です。つまり、鳥がふだんは不顕性、要するに、症状を出さずに菌をふん中に出します。これも常に出すわけ

ではなくて、先ほど今岡さんのお話にもありましたけども、時々出すようなんですね。時々出すので、それが、鳥の間で親から子に伝わるわけですけども、その乾燥したふんを人が吸い込みます。どういうときに吸い込むかという、大抵は掃除のときだと思います。

オウム病にかかる方は30から40代ぐらいの女性の方の割合が比較的多いのですが、それは何かということ、世話をする方に出るということですね。子供とか、お父さんが鳥が飼いたいと持ってきて、最終的には、おうちの一番家にいる時間が長い方が掃除等をするということになりがちなので、感染する機会が多いのかなと思います。

ここで問題になりますのは、鳥のふんが最初は湿っているんですが、時間がたつと乾いて、かたくなって、だんだん砕けていくわけですね。その間、実は、クラミジアは生きてまます。生きてまますというのは、感染する能力を持っているわけです。ですので、そのほこりを吸うことによって感染が成立していくと言われてています。

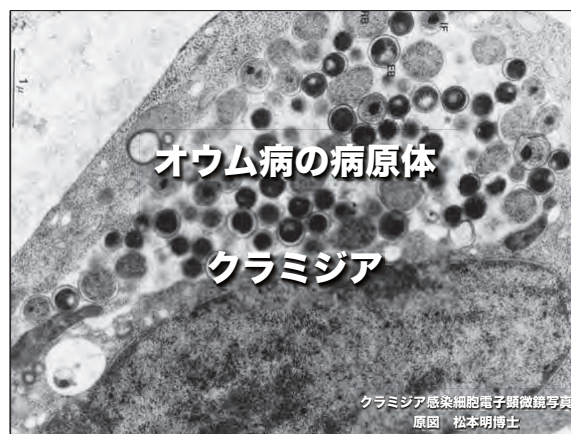
感染してしまいますと、最初、インフルエンザ様症状から始まるわけなんですけども、そのままインフルエンザのままで受診しても、多分、マクロライド系のような比較的穏やかな抗生物質とを処方していただくとクラミジアに効きますので、きちんと治っていきます。残念ながら、β-ラクタム系、いわゆるペニシリンのたぐいを処方されると、それは効かないし、悪い方向に向かうのでちょっと問題があるということが実際にはあります。

1970年代までには、治療がきちんとできずに、最終的に全身感染を起こして亡くなった方が何例もみえます。その中には、報告を読むといろんな事例がありまして、先ほどスキンケアをどのぐらいするかというのがあるんですが、報告例の一つとしては、鳥が好きの方というのは、割と仲間同士で鳥の話をするわけですね。70年代、鳥カフェはなかったと思うんですけども、鳥の仲間でお話をして、だれかが旅行するときに鳥を預かってくれということによって預かって、その預かった鳥のぐあいが悪くなったので、添い寝してあげたいんですね。添い寝してオウム病になって、最終的に亡くなったという事例も報告されてるようなんです。

ですので、鳥を飼う方には、適度な距離を置いてくださいと一生懸命お願いをしているところです。

【スライド 10】

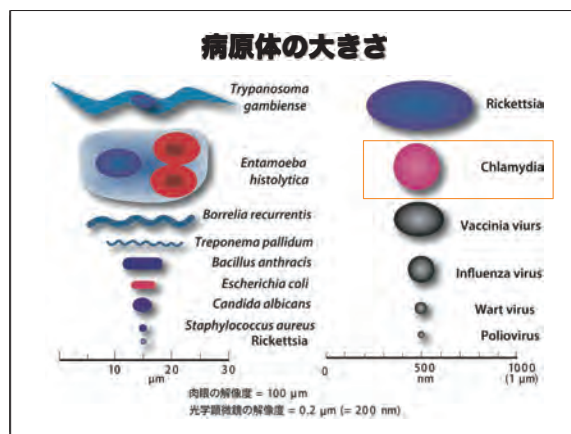
では、こういった原因になるクラミジアというのは、どういう微生物かということです。これは電子顕微鏡



【スライド 11】

です。この写真は、私のクラミジアの先生で、松本先生という方がみえるんですけども、その方からお借りした写真です。大きな細胞の中にこういう小さな粒子状にいる、これがクラミジアということになります。これだけ見ても多分わかりませんので、ちょっと大きさ比べをするということで持ってきました。

【スライド 11】



【スライド 12】

きょう、今まで話題になりましたのは、例えば、グラム陰性菌というのは左側ですね。左側は、実は顕微鏡で見ることができるものです。顕微鏡というのは光学顕微鏡で、いわゆる光のレンズを使った顕微鏡で見えるものたちがここに書いてあります。

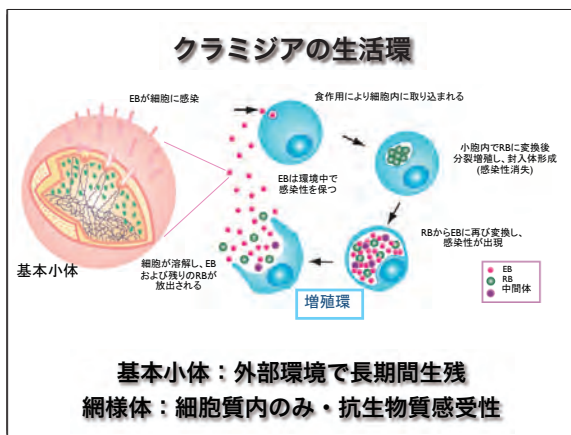
トリパノソーマ・ガンビア、これは眠り病ですね。アフリカでツエツエバエによって媒介される病気です。それからこれがアメーバー赤痢、それからポレリアとか、トレポネーマとかがあります。これは炭疽菌という病気ですね。これが大腸菌、それから、先ほどちょっと出ましたブドウ球菌というのはこのぐらいの大きさになります。

この一番小さいのを右側に拡大すると、顕微鏡で見えるぎりぎりの大きさになってきます。ここにありませんのがクラミジアということになります。クラミジアよりちょっと小さなワクシニアというのがありますが、

これは、天然痘という病気の原因です。今では地球上から根絶されたわけですね。昨年は、牛痘という2番目に根絶された病気が出た、久しぶりにすばらしい年だったんですけども、天然痘も、ワクチンと撲滅計画でなくなったわけです。

インフルエンザウイルスというのは、クラミジアの3分の2ぐらい、大体100から200ナノメートルぐらい。非常に小さなものですね。

それからあと、これ、いぼのウイルスや小児麻痺のウイルスとなりまして、右側のグループは、できれば電子顕微鏡、先ほどの普通の光を使うのではなくて、電子線という特殊なものを使って見ることができる、非常に小さな微生物です。【スライド12】



【スライド13】

これまでのお話とちょっと違うのは何かというと、クラミジアというのは、寒天ですとか人間がつくった培地でふえることはできません。培養細胞というのを使います。ですので、生きものという面から言うとウイルスというのに非常に近いですね。この非常に小さな粒子が、小さなものが細胞の中に入ってふえていくんですが、ふえるときに、実は二つの形をとります。一つは、基本小体、赤で書いてありますけども。これは非常に小さいんですけども、外部環境での抵抗性が非常に強くて、低温であれば、多分1カ月ぐらいは普通に生き長らえるということがあるわけです。

基本小体の状態では、実はふえることはないの、吸い込まない限り問題がない。ただ、逆に、基本小体という状態に抗生物質を与えても全然効きません。抗生物質の多くは細胞が分裂するときに働きますので、どういときに働くかということ、網様体、ここに緑で書いてありますけれども、これはクラミジアの細胞の中で分裂するときの形です。このときには盛んに代謝も活発になりますし、2分裂をするということで、このときに抗生物質が初めて効くわけです。

ですので、抗生物質も細胞の中に入っていかないと

効かないんですね。だから、細胞内移行性の高い抗生物質が有効であるということがわかるかと思えます。そのために使える抗生物質は限られています。

【スライド13】



【スライド14】

クラミジアによる人獣共通感染症、実はオウム病ばかりではありません。世界的に見ますと、例えば、猫からのクラミジアの病気も、結膜炎の症例が20から30症例ぐらい報告されています。それから、クラミジアも流産を起こします。フランスの例では、羊の流産と関連する羊牧場にいた妊婦さんの流産からクラミジア・アボルタスがとれたという例もありまして、人獣共通感染症ではないかと疑われているわけです。それから、豚にもクラミジアがありまして、これも関連する可能性があると考えられています。

ちなみに、クラミジアはコアラにもあります。コアラにとってもクラミジアは非常に大きな問題で、目が見なくなったり、泌尿、生殖器系の関係で繁殖できなかつたりしますので、一遍ヨーロッパでクラミジアの会議があった後に、飛行機の中で隣に座ったおばあさんが、あんた何してるのと言われて、クラミジアの研究してると言ったら、コアラにとっても、とっても大事な病気だからちゃんとやってねと言われたんですけど。すごいしっかりしたおばあさんで、「はい、頑張ります」と言ってたんですけども。実際、コアラは木の上で暮らしていますので、目が見えなくなると木から木に移れなくなって、御飯も食べられないので、非常に大変なんですね。そういったこともあります。

それから、ペコルムといって、普通の牛とか羊にふだんからいるものです。病気として何をしてるかというのは、わからず、課題になっています。【スライド14】

それでは、ここからは鳥のクラミジア感染症についてお話しします。

ちなみに、これはモモイロインコで、自然界では、こういうふうにグループで非常に楽しそうに暮らして

クラミジア感染症

【スライド 15】

オウム病 (鳥クラミジア感染症)

宿主：18目145種の鳥類、ヒト

原因菌：*Chlamydia psittaci*
(*Chlamydia abortus*)

分布：世界中のあらゆる鳥種

症状：不顕性感染

元気・食欲不振、羽毛逆立、削瘦、緑白色下痢便

発症要因：ストレス、混合感染など

【スライド 16】

各種鳥類の症状

比較的良く見られる症状

呼吸器症状、鼻漏、下痢、多尿、沈鬱

神経症状があるとされている鳥種

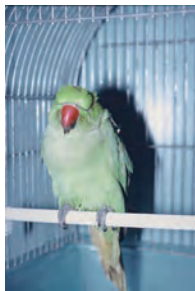
アマゾンオウム、コンゴインコ

結膜炎

オカメインコ、セキセイインコ

比較的抵抗性

ハト



【スライド 17】

いるので、これをさらってくるのはどうかなと思うんですけども、やっぱり、こういうかわいい姿を見ると、どうしても身近で飼いたいというのが人情のようですね。ただ、僕が訳した本には、ちょっと一文ありまして、「あなたがその一羽を飼う会計で、何羽の鳥が自然界から消えたかを考えてください」というのがあります。

クラミジアをもっている鳥の種類は18目145種と言われてます。原因菌はクラミドフィラとなっておりますけども、先ほど言いましたようにアボルタスも、実は鳥にいます。現在未発表ですけども、ガーナの鳥を調べたところシッタシじゃなくてアボルタスと思われるクラミジアがとれてますので、自然界ではもうちょっ

というんなものがあるのかもしれませんが。

世界じゅうのあらゆる鳥種、先ほども言いましたように、一昨年、ちょっとガーナに行く機会がありまして、ガーナの野鳥からもクラミジアを見つけることができ、世界じゅうにいるということですね。ほとんどは、不顕性感染です。ただ、症状が出ますと、元気がなくなって御飯を食べられなくなって、鳥の場合ですと羽毛が逆立つようになって、だんだんやせてきて、肝臓障害が出ます。

ただ、鳥の場合、やせるというのは、なかなかわからないですよ、毛がありますので。

発症要因としてはストレスですとか、あと、突然、飼い主さんが全然違う鳥を買ってきて、そっちにばかり愛情いくので、僕はどうなるのというふうなことで発症するとか、あるようなんです。【スライド 16】

この元気のなさそうな雰囲気とか、よく見るとこちら辺汚れてるんですね、下痢とか。これを外国で発表したときメランコリーと言ったら、質問が出て、メランコリーというのは主訴で、自分が何となく気分悪いとか、いろいろ言わないとわからないはずなんですけど、何でわかるんだと言ったので、僕は獣医なのでわかるんですよと言ったら、笑われました。鳥飼ってると多分わかると思いますけどね。また、呼吸器症状等も出ます。ただ、鳥種によって症状も違うと言われていて、アマゾンオウムですとか、コンゴインコなどは神経症状が出るようです。

それから、あと、結膜炎を示す鳥としてはオカメインコとセキセイインコ、これは非常になじみがあるものだと思います。ただ、比較的抵抗性があるものもありまして、これはハトですね。ハトの話、最後のほうでもしますが、現在、飼い鳥についてはクラミジア感染症はかなりきれいになっていますが、野鳥についてはだれも面倒をみてくれないので、非常に問題になるということです。【スライド 17】



オウム病 (人)

潜伏期間は1~2週間

急激な高熱と咳嗽で発症

軽症の気道感染から、肺炎や髄膜炎までの多様な病態

市中肺炎における頻度はさほど高くはないが、中等症までの非定型肺炎と原因菌不明の重症肺炎では、必ず鑑別に入れる必要がある。

【スライド 18】

オウム病、人の場合ですけれども、潜伏期間が1週間から2週間。これは先ほど岡部先生もお話しされたけども、ある県のある鳥の飼育施設でオウム病の集団発生がありまして、暴露されたと思われる日と発症までの期間を見ると、本当にぴったりなんです、驚くべきことに。もう、それ論文になってますので見ていただくといいと思うんですけど、大体1週間から2週間です。

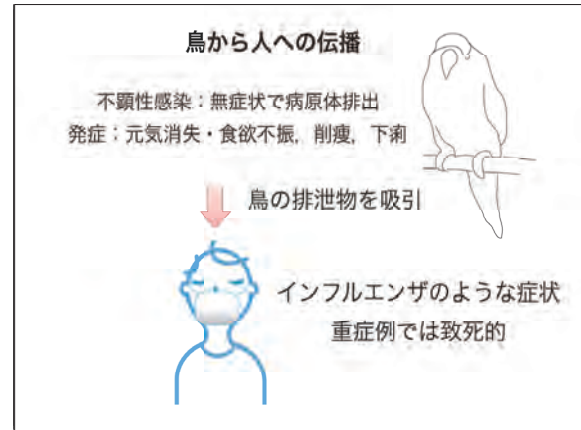
実は、ある動物園で、オウム病の疑いの例があったんですけども、潜伏期等の関係もあって違う病気だというのがわかっています。この会に出るに当たっているいろいろ調べたら、オウム病に関するQ&Aで、「きのう鳥を買ってきて、翌日になったら熱が出たんで、オウム病なんですか」という質問もあったのですが、「潜伏期間からするとそれはあり得ない」というのがちゃんと書いてあったので、「よかったな」と思いました。鳥とオウム病を結びつけてくれることは非常にいいことだと思います。

熱とせき、それから軽度の気道から最終的には、治療がおくれますと髄膜炎までいくということがあります。市中肺炎における頻度はそれほど高くはありません。後で報告数出しますけども、非定型肺炎ですとか、原因不明の場合には、鑑別に入れる必要があるということですね。

実際に、先ほど集団発生の例がありましたけども、そのうちの1名の方は、実は大阪で診断された方です。動物園は鳥根県のほうにありますので、離れてるわけですね。そういった展示施設で感染すると、問題になるのは、実際の患者さんたちは家に帰ったときには全国に散らばってしまうということですね。近くであればわかりやすいんですけども、展示施設だと散らばってしまうので、横の連携がない限り集団発生があっても非常にわかりにくいというのも問題だと思います。

私の古くからの知り合いの岸本先生というお医者さ

んがいるのですけども、その先生がオウム病の講演をされたときに、講演が終わった後にお医者さんが尋ねてこられたそうです。その方は、自分で扱っている患者さんで、なかなか熱が引かない方がいるんですけども、よく聞いたらあるところに行っていた。どうでしょうかということで岸本先生に相談して、治療薬を変えたら一気に熱がひいたそうです。【スライド 18】



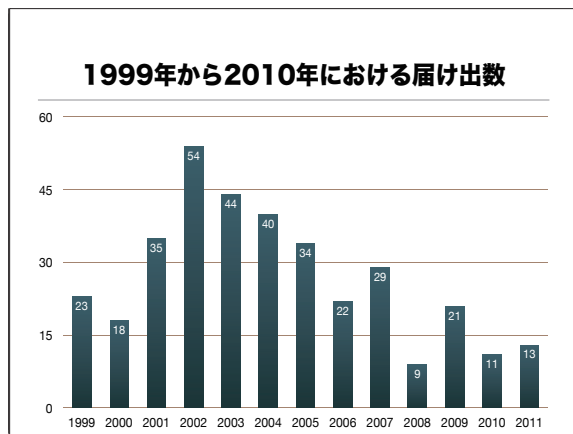
【スライド 19】

鳥を介しての伝播としては、鳥は不顕性感染で、無症状で病原菌を排出します。そして、元気がない、こういった鳥の排せつ物を吸引してインフルエンザ症状を起こします。重症例では致死性的です。ただ、80年代以降日本でオウム病による死亡者は多分ゼロだと思います。呼吸器内科の先生方がかなり意識的に啓蒙活動とか、啓発をされたので、お医者さんの診断がきちんとできる場合が多くなり、死亡者がなくなったということがあるかと思います。【スライド 19】

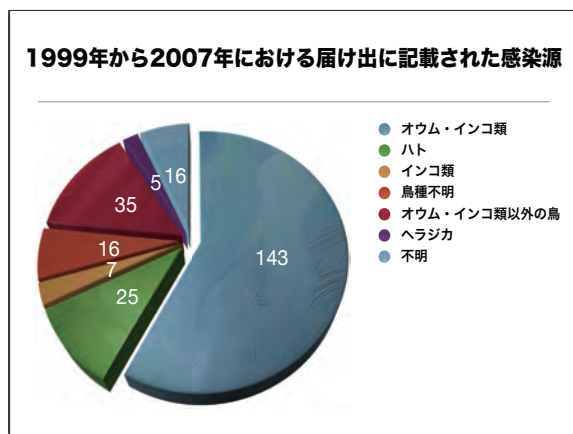
オウム病の現況

【スライド 20】

オウム病の現況ということでお話ししますと、感染症法による病気の分類では、オウム病は第4類で、全数届け出疾患です。この2001年、2002年、今お話しした集団発生の事例があった年です。このとき非常に多かったんですけども、こちらで厚労省のほうからもいろんな通達を出していただきまして、現在、非常に少なくなっています。もう10台になっているので、



【スライド 21】

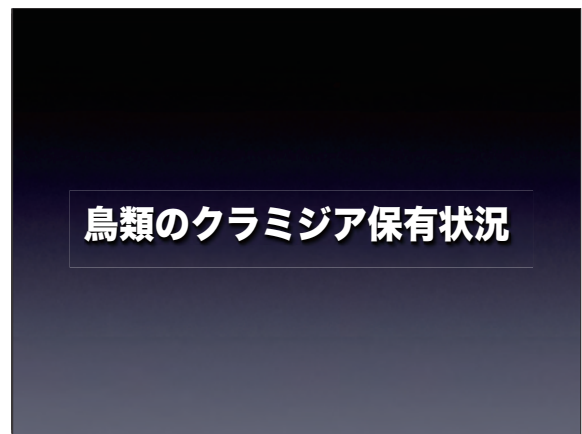


【スライド 22】

このまま順調に行けば、報告例はごくまれになって来るんじゃないかと思えます。【スライド 20-21】

感染源について見ますと、一番多いのは、やはりオウム・インコ類、ハト、インコ類があって、鳥種がちょっとわからない例と、オウム・インコ類以外の鳥です。ヘラジカというのがありまして、動物園でヘラジカの流産のときに、ちょっと緊急だったので、ふだんはしている手袋とか、マスクができなかったとかいろんな理由で、やむを得ず感染した例がちょっとあるということですね。

愛玩鳥に関するクラミジアの調査例というのは、法律的には決まっておられません。私たちの研究室では、動物病院から依頼を受けてさまざまな健康診断をしています。健康診断に当たっては、学生の教育が第一義です。外から検体を受けて、調べて、その結果をどういうふうに返したらいいかというトレーニングをやっているの、そういったことを理解していただいた上で検査を受けています。最終的な診断はその獣医さんがなすべきことなので、あくまでも参考資料ということをお願いしています。検査結果については、こういった研究会等で報告させていただいて、できるだけオウム病の撲滅に役立つようにという理解のもとにやらせていただいております。【スライド 22】

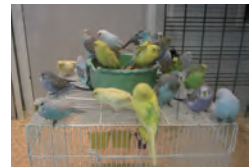


【スライド 23】

我が国の愛玩鳥における鳥クラミジア症

2006年4月から2010年3月までにクラミジア検査依頼のあった検体

- ・愛玩鳥販売業者（2業者、668検体）
- ・動物病院（18病院、285検体）
- ・鳥類展示施設（7施設、219検体）
- ・上記以外、野鳥など（699検体）



【スライド 24】

クラミジアの検出方法

- 1. 採材**
 - ・鳥の糞便またはクロアカスワブを採取
- 2. DNA抽出**
 - ・DNA抽出キットを用いてDNAを抽出
- 3. PCR法による検査**
 - ・Nested PCR法またはReal-time PCR法
- 4. 塩基配列解析**
 - ・一部サンプルに関しては塩基配列確認した



【スライド 25】

2006年からのものですが、668検体、ほとんどが健康診断ですね。それから鳥の展示施設や野鳥なども調べてます。【スライド 23-24】

どういうふうに調べるかということなんですけども、得られる材料、ふん便、ないし、直腸のぬぐい液ですね。多くの場合に、鳥を捕まえておしりに綿棒入れるということ自体がストレスになるので、やっぱり新鮮なふん便がいいです。かたいふん便からはDNAが全然取れないので、できるだけ新鮮なふん便を送ってくださいます。

そこからDNAを、キットを使って抽出いたしまして、PCRですね。PCRもいろんな方法があるんで

すけども、なかなかいいのができないのはできないんですけども、現在は、大体 10 の二乗から三乗ぐらいあれば見つけられます。余り敏感にしても意味があるかどうかというのがちょっとあるので、今のところそのぐらいで大丈夫だろうというふうにやっています。見つかったものについては塩基配列を読んで、どんなクラミジアが世間にいるかというのを調べています。

【スライド 25】

年別クラミジア陽性率

	検査数 (羽)	陽性数 (羽)	陽性率 (%)
2006年	988	13	1.3
2007年	328	7	2.1
2008年	353	2	0.6
2009年	202	8	4.0
合計	1871	30	1.6

【スライド 26】

鳥種別クラミジア陽性数

鳥種	検査数	陽性数
オカメインコ	209	3
セキセイインコ	61	2
コザクラインコ	25	1
ヨウム	18	1
キガシラアオハシインコ	12	1
ショウジョウインコ	5	2
テンジクバタン	3	1
ギニアエボシドリ	3	1
ハツハナインコ	2	1
ソテシロインコ	2	1
コガネメキシコインコ	2	1
パナマボウシインコ	2	1
アヒル	35	1
上記以外の鳥種	1421	10
鳥種不明	71	3

【スライド 27】

陽性率ですが、この 2005 年ぐらいまで大体平均すると 5% ぐらいだったんですが、2006 年は大体 1.3%、それから 2007 年が 2.1%、2008 年は 0.6、2009 年が、ちょっと陽性率上がったんですけども、4.0%でした。この 2006 年から 2009 年まで大体 1.6% ということで、その前に比べるとかなり減っています。これは、やはり日ごろのいろんな活動と、あと、販売される方々の意識もかなり高くなっているんだと思います。

鳥種別に見てみますと、オカメインコが、検査数も非常に多いので結果的に陽性も高くなるんですけども、あとは、本当にばらばらですね。オカメ、セキセイ、小桜、これは主に国内繁殖の鳥です。それから、こっち側は、実は輸入される鳥たちですね。現在、野生の鳥を直接輸入することはしてはいけないことにたしかになってい

鳥種別クラミジア陽性数

鳥種	検査数	陽性数
オカメインコ	209	3
セキセイインコ	61	2
コザクラインコ	25	1
ヨウム	18	1
キガシラアオハシインコ	12	1
ショウジョウインコ	5	2
テンジクバタン	3	1
ギニアエボシドリ	3	1
ハツハナインコ	2	1
ソテシロインコ	2	1
コガネメキシコインコ	2	1
パナマボウシインコ	2	1
アヒル	35	1
上記以外の鳥種	1421	10
鳥種不明	71	3

【スライド 28】

鳥種別クラミジア陽性数

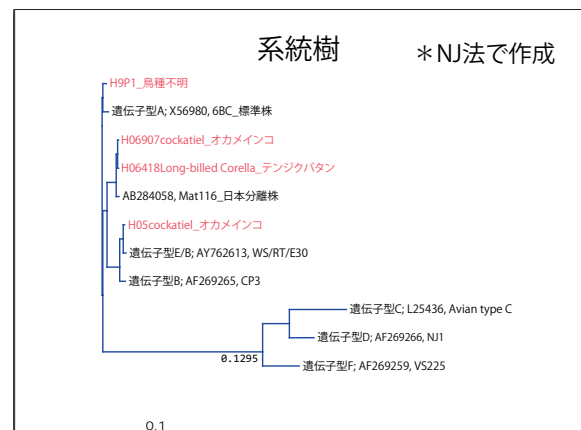
鳥種	検査数	陽性数
オカメインコ	209	3
セキセイインコ	61	2
コザクラインコ	25	1
ヨウム	18	1
キガシラアオハシインコ	12	1
ショウジョウインコ	5	2
テンジクバタン	3	1
ギニアエボシドリ	3	1
ハツハナインコ	2	1
ソテシロインコ	2	1
コガネメキシコインコ	2	1
パナマボウシインコ	2	1
アヒル	35	1
上記以外の鳥種	1421	10
鳥種不明	71	3

【スライド 29】

るはずなので、多分、向こうで許可された鳥類の飼育施設で繁殖されたものだけになってるはずなんですけども。こういったものからもクラミジアが見つかります。

どういったクラミジアがいるかというのを調べることができるんですが、これまで、標準例とかありますけども、国内でもいろんな遺伝子型、要するに、いろんな系統の多種類のクラミジアが存在しているので、1 種類か 2 種類のものが全国に蔓延しているわけではなくて、いろんなものがまじり合っていると考えるかと思えます。【スライド 28-29】

ここまでは飼い鳥ですので、比較的制限もしやすい



【スライド 30】

です。飼う人の意識ですとか、ブリーダーの意識が高まればいいわけですが、残念ながら野外の鳥については非常に難しいものがある。これは、私たちの大学の同僚の石黒先生たちのグループが岐阜県で調べた例です。こちら岐阜県、それから、これ全国ですけども、ドバトを調べてみますと、北海道では35分の28、東京でも60%ぐらいですね。全国平均大体23%ということになって、飼い鳥よりはるかに多いのがわかるかと思えます。【スライド 30】

野外の鳥：ドバトの調査例								
岐阜県における月別検出率								
県	検出率		2003年			合計		
	検出数/総数	検出率	9月	11月	12月			
北海道	28/35	80%						
東京	14/23	61%						
神奈川	1/4	25%						
岐阜	41/290	14%						
愛知	10/81	12%						
大阪	11/29	38%						
広島	1/1	100%						
合計	106/463	23%	9月	11月	12月	合計		
			11/16	11/11	19/187	0/50	0/26	41/290
			69%	100%	10%	0	0	14.1%

23%から検出

(Tanaka et al. 2005)

【スライド 31】

ただ問題になりますのが、月別の陽性率が全然違うということですね。例えば、9月、10月では、非常に高率にクラミジアが見つかるんですけども、12月、4月、6月になると、同じようなグループのハトを見てもクラミジアがとれなくなるということがありますので、いつ調査するかといったことも非常に問題になります。ただ、グループによっては、ここにありますように、ほとんどすべてのハトが持っている場合もあるわけですね。ハトについてはいろんな問題があると思えます。オウム病だけではなくて、真菌、カビによる病気もありますし、ほかにもさまざまな病気、それからふんによる被害とかがあります。【スライド 31】

治療について見ますと、ちなみに、これはゴシキセイガイインコといって非常にきれいなものたちですね。

オウム病クラミジア感染症の治療

【スライド 32】

集団発生をしたときには、このインコが放し飼いにされていて、ジュースを持っていくと、自分の手にとまってジュースを飲んでくれるわけです。ジュースを飲みに来るのはどうしてかというの、皆さんわかりますか。おなかいっぱいだとジュース飲まないですよ。ジュースを飲むような状態にするんですね。そこはちょっと考えてほしいなと思います。


これから治療の話をしませんが、例えば、こういった集団の鳥を治療するとき、この子たちはジュースしか飲みませんので。要するに、熟れた果実のジュースを吸ってるわけですね。ジュースにまぜて薬を入れると何が起きるかという、威張りん坊はたくさん飲みます。いじめられっ子は全然飲めないですね。結果的に、一部の鳥は過剰投与になり、一部の鳥は全然とれない、できない。いじめっ子を省くと残りからまた出るんですよ、集団で治療するというのは非常に難しいです。それから、こういった鳥は、非常に知性が高い、人間ほどではないと言うしかないですけども、知恵が高いもの場合には非常に難しいので、注意が必要です。【スライド 32】

オウム病のドキシサイクリンによる 治療方法		
適応鳥種	投与期間	投与経路
全鳥種	45-60日	飲水
オウム類	45-60日	食餌
ヒインコ	45-60日	食餌
小顔コンコ・カナリア	45-60日	食餌
ゴシキセイガイインコ	45-60日	ネクター
水鳥類	45日	食餌
水鳥類	45日	経口

【スライド 33】

このとき使いましたのはドキシサイクリンという薬です。今言いましたように、鳥によって、実は、食性、食べ物、食べ方が全然違いますので、それを考えないといけません。多くの鳥は水に混ぜて与え、期間は45日程度です。ただ、ドキシサイクリンを水に溶かして飲んでいただくとわかるんですが、非常に苦くて、飲む気になれないので、これも非常に大きい問題です。それから、テトラサイクリン系は光に弱いものですから、まぜて置いておいても、半日ぐらいたつと、多分薬としては効かないという問題もあります。

それから、水鳥の場合には、カプセルに入れて薬を投与します。一緒に検査をしているところでも出たときに、魚にカプセルを入れて飲ますんですね。飲んでくれたと思って、しばらくするとカプセルだけが一個ぼ



オウムインコ類におけるオウム病の治療方法例

薬剤	投与期間	投与経路	備考
ドキシサイクリン	45日	飲水, 経口, 餌	ヨウム, ボウシインコ, コンゴウインコ, バタン類で嘔吐
オキシテトラサイクリン	5~14日	餌, 飲水	ヨウム, ボウシインコ, コンゴウインコ, バタン類で嘔吐
アジスロマイシン	30日	経口	肝機能, 腎機能に問題がある場合は使わない
クラリスロマイシン	30日	経口	
ミノマイシン	30日	経口, 飲水	
クロルテトラサイクリン	45日	飲水, 餌	ヨウム, ボウシインコ, コンゴウインコ, バタン類で嘔吐

【スライド 34】

つんと落ちてるといふことで、鳥たちは非常に敏感にかぎ分けるようなので、非常に投与は難しいです。

ほかにもさまざまな薬が使われます。今言いましたのがドキシサイクリンです。それからオキシテトラサイクリンですとか、アジスロマイシン、クラリスロマイシン、こういった系統の薬もあるんですが、やはり問題になりますのは副作用です。人の場合であれば、多分、薬を投与しながら肝臓機能を調べて、様子がいいとか悪いとかあると思うんですが、鳥からの採血は非常に難しいです。セキセイインコであれば、十数グラムの鳥ですので、一滴か二滴とるだけでも大変で、数滴血が流れた段階で貧血によって倒れてしまいますので、そういうことができないというのがちょっと問題かなと思います。こういった治療については、今回の発表に当たって、臨床をやっておられる真田先生と中野先生に相談して、スライドを用意させていただきました。

治療によって本当に治るのかという問題はあるかと思いますが、少なくとも集団発生があった施設について投与して、その後3年以上にわたって時々モニタリングをしていますが、きちんと薬をもらえた鳥については、排菌は今のところ観察されていません。ただ、臨床の先生方の話を聞くと、時々薬が十分に効かなくて再発する例があると言っておられますので、薬を与えた後も定期的に検査をして、出た場合には、また投与するということが必要かなと思います。【スライド 34】

最後に、まとめにならないまとめですが、仲よく暮らすためにはということで、やはり、日ごろ、鳥の健康管理ということが大事かなと思います。鳥を飼う人は、多分、毎日「行ってきます」をして、「ただいま」を言ってると思うんですけども、御飯の食べ方ですとか、いろんな対応で健康状態がわかってと思います。

何遍も出てきましたけども、鳥との適度な接触というのが大事だと思います。それから、おかしいと思ったら、獣医さんにすぐ相談してくださいますというわけで

まとめ

【スライド 35】

鳥と仲よく暮らすために

鳥の日頃の健康管理

鳥との適度な接触

おかしいと思ったら獣医師にすぐに相談

獣医師と医師の相互協力

【スライド 36】

ですが、いろんな活動を通して獣医師の意識も高まっています。ただ、オウム病の場合には、鳥だけではなくて、お医者さんとの相互協力ですね。獣医さんについては、オウム病と思われる鳥が出たら、飼い主さんにオウム病の可能性もあるのでお医者さんに相談に行ってくださいということも言いますし、お医者さんたちにも願いたいのは、オウム病の患者さんを診たら、鳥についてもきちんと獣医さんに行くように言ってほしい。いろんな方がみえますが、きちんとうまく連携をとっていきたいと思います。

時々、鳥たちもこうやって相談してるようなんですけども、こういうふうに鳥と人がきちんと暮らせるような状態にしていきたいと思いますので、御協力していただければと思います。

御清聴ありがとうございました。

○岡部座長

富士先生、どうもありがとうございました。

それでは、何か御質問、御意見のある方ございましたら、どうぞお願いします。

僕、お話を聞いて、そういえばと思ったんですけども、確かに鳥屋さんってなくなりましたね、小鳥屋さん。あれは、なぜですか。

○福士先生

ないですね。

多分、需要がなくなってる。

○岡部座長

生活形態。いやいや、需要がなくなったというのは、鳥を飼うという習慣が、習慣というのかな、ペットがブームになりながら鳥が少なくなったというのは何かあるんですか。

○福士先生

飼われてる鳥の種類がかなり変わってきていますので、多分、ブンチョウとかジュウシマツって一羽すごく安かったと思うんですけども、今、一羽で非常に高いものばかりになっているので飼いにくいというのと、あと、やっぱり、人間の住み方というんですかね、住居も、集合住宅だと飼いにくいとかいうのがあるのかなとは思うんですけど。

○岡部座長

ありがとうございました。よくお小遣い持って、鳥買いに行ったことがあるもんですから。

いかがでしょうか。

○質問者

国内の感染率と海外の感染率の表をお示しいただいたと思うのですが、海外の場合には、検査数の母数が2例とか、何例とか、非常に少ない例で、それで1例とか、それぐらいという数字だということ、やっぱり濃厚感染するんですか、海外のほうは。

○福士先生

海外というのは、調べたうちの海外由来の鳥ということなんですけども、そこら辺が非常に難しいところで、出れば100%、出なければゼロなんですけども、ほかの例を見ても、やはり海外から輸入されるような大型鳥の場合には、持っている率は高いと言われています。それから、あと、ほかにも問題があるというのは何かと言いますと、輸入するときには大抵航空機で運んでくるんですけども、小さい箱の中にたくさん鳥を詰め込んで来ます。そのときに、お互いにウイルスですとか、クラミジアをお互いにやりとりしている可能性があります。オウム・インコ類の病気で嘴羽病というのがあるんですけども、その病気も、やはり基本的には産地によって特定のウイルスがとれるはずなんですけども、全然違う産地のものの入り交じったようなものが見えるので、それは、多分、輸送中にお互いに病原体が行き来している可能性がありますので、そういった関連もあって、輸入された鳥についてはストレスもかかりますので、その中で、輸送中に病気が広がりやすいではないかとは推測してい

ます。

○質問者

現地での感染率というのは、特に調べになってないですか。

○福士先生

残念ながら、現地の感染率については、ちょっとわからないです。

○質問者

わかりました。ありがとうございました。

○岡部座長

そのほかには、いかがでしょうか。

それでは、御熱心に討議をいただいたんで、だんだん時間が迫ってきたんですけども、福士先生、ありがとうございました。

このセッションの最後の演者ですけれども、厚生労働省健康局結核感染症課課長補佐という、すごくかたいようなんですけども、森田補佐は獣医さんです。それで、我が国における動物由来感染症対策、先ほども、少し御質問があったり、コメントがあったりしたんですけども、どういうふうに、国の立場から見て動物由来感染症対策が行われているか、そんな話をお伺いできると思います。

森田補佐、どうぞ、よろしく申し上げます。